

自分にかつ

「四郎さんは、このごろ
あまりけんかしくなくなっ
たな。」

「そういえばそうだな。どうかしたのかい。四郎さん。」
四、五人の子どもたちが、遊びつかれたようすで、川原かわらに腰をおろして話し
あっています。山が近いせいか、このあたり、秋の夕日はみるみる西にかたむ
いていきます。

「別に、何もないよ。ただ、相手がいらないだけさ。暗くなるから、さあ、み
んな帰ろう。」

